

# 広葉樹林育成における動物の食害について

釧路湿原森林ふれあい推進センター  
自然再生指導官 立野 政信

## 研究の背景・目的

平成12年度にトドマツの人工林が気象害に遭い大規模な立ち枯れが発生しました。このため、疎林や無立木地になった箇所を地表処理し、人工植栽及び天然更新により広葉樹主体の森林を造成する自然再生事業を行っていますが、エゾシカによる激しい食害が発生したため、防鹿柵を設置しました。ところが防鹿柵内に新たな動物による食害が発生しました。

その動物を特定するための調査方法を検討のうえ実践し、その対策についての知見が得られたので発表します。

## 研究の内容・成果

釧路湿原上流部の雷別地区において、地表処理し、人工植栽及び天然更新による広葉樹主体の森林を造成する自然再生事業を行っています。

天然更新が順調に進んでいない一方、植栽木は、ツリーシェルターで保護した箇所以外はエゾシカの食害を受けほぼ全滅の箇所もありました。

しかし、エゾシカだけの食害としては、いくつかの疑問点が残りました。

- 1 食害を受けた植栽木の割合が高すぎる。
- 2 地表処理した箇所の植栽木だけが被害を受けており地表処理周辺の笹は食害を受けていない。
- 3 自然再生事業地の外側は牛の放牧地で餌が豊富なのになぜか植栽木を食べに来る。

エゾシカの対策としては平成26年度に防鹿柵を設置しました

疑問点を踏まえエゾシカ以外の食害もあるのではと推測し、注意して防鹿柵内を観察しました。

防鹿柵設置後の植栽木においてエゾシカの食痕に似た被害木を発見したので調査方法を検討のうえ被害を与えている動物の特定を行いました。

## 調査方法

食害木の食痕などの特徴についての調査を行いました。

動物を特定するために自動撮影カメラによる写真撮影とビデオ撮影の調査を行いました。

これらの結果、高い頻度で人工植栽地を動き回るノウサギが撮影され、植栽木がノウサギにより食害される様子がビデオ撮影を通じて観測され、ノウサギによる食害と推定されましたので対策を考えました。

## 対策について

- 1 食害されにくい植栽木を選ぶ。

食害を免がれた植栽木や天然更新木を樹種別に調べた結果、ケヤマハンノキが食害を受ける割合が低く、植栽木として有望と判断されました。

- 2 物理的に排除する

- ① ツリーシェルターを利用する。
- ② 防ウサギ柵を利用する。

(この方法は発生する実生の稚幼樹の保護にも有効)

## 今後の展開

広葉樹主体の森林を育成する上で障害となる動物の食害対策を実践しつつ検証を重ね、実効性の高い食害対策施策に結びつけていくことにより



植栽木がノウサギにより被食されている様子

広葉樹林育成における「動物の食害対策施策」を確立。